

# 近代東アジアにおける 人・情報の移動と他者認識

■日時: 2014年7月12日(土) 13:00~

■会場: 早稲田大学戸山キャンパス 33号館436教室

## ■開催趣旨

東アジアの国際関係は、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、中国中心の伝統的な国際秩序から、日本が主導する近代の国際秩序へと編成替えされていった。そうしたなかで、一方では、主権国家の編成にともなう境界認識が顕著になり、国境と領土の観念が成立していった。しかし、他方で、国家・国境を越える対外接触の機会が量的にも質的にも深化・拡大し、ヒト・モノの移動や文化・情報の交流が極めて緊密になった。近代という時代は、新たな支配と従属の過程をとめないながら、世界の一体化を促さざるを得ないからである。では、そうした移動と交流は、東アジアを構成する人々の間に、どのような他者意識（ひいては自己意識）の変容をもたらしたのであろうか。

本シンポジウムでは、近代東アジアにおける人の移動と情報の交錯に焦点をあてて他者認識のありようを探り、それを通じて近代という時代が東アジアに生じさせたトランスナショナルな社会の相貌に迫ってみることにしたい。報告では、日本への人の移動による日本の社会編成の複層化と、日本からの人の移動による「日本社会」の外延的拡大の双方に注目しつつ、近代における「トランスナショナル社会と日本文化」の相に関して考察を深めることを目指したい。



企画・司会: 大日方純夫(早稲田大学文学学術院教授)

●趙 国(早稲田大学文学研究科 博士後期課程)

「明治初期日本における清国人の管理 —「在留清国人民籍牌規則」の成立前後を中心として—」

●青木 然(早稲田大学文学研究科 博士後期課程)

「日清・日露戦間期における日本民衆の朝鮮・清国認識 —壮士・書生との関係に注目して—」

●江 永博(早稲田大学文学研究科 博士後期課程)

「台湾総督府による歴史編纂事業 —渡台した「内地人」は台湾の歴史を如何に認識したのか—」

●佐川享平(アジア歴史資料センター)

「戦間期日本の炭鉱と朝鮮人労働者」

※参加費無料・事前申込不要

共催: 早稲田大学文学研究科日本史学コース

お問い合わせ先: 大日方純夫研究室(03-5286-3739)